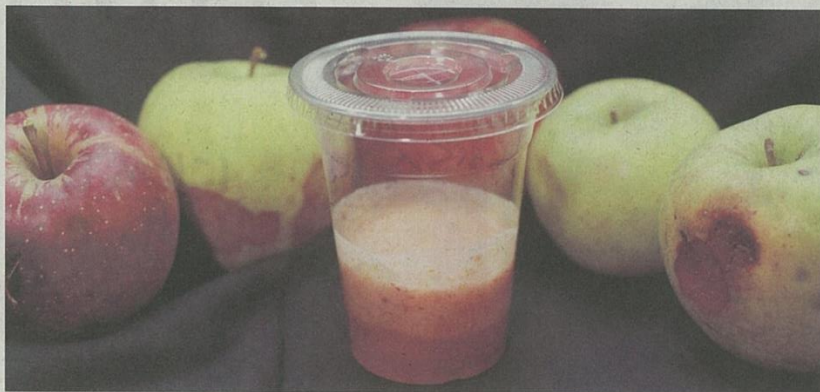


# ひょう害リンゴスムージーに

## 八学大が開発、被災農家支援



爽やかな味わいの「八学スムージー」

規格外農作物活用の研究に取り組む八戸学院大と八戸市が、7月の降ひょう被害に見舞われたリンゴなどを原料にした「八学スムージー」を開発した。10月10日午後1〜4時に同市の「はっち」1階キャタリーで、限定50杯を農作物と共に試験販売する。  
(工藤文一)

### 来月10日、はっちで50杯限定販売



面者は2010年締 降ひょうで実が傷つ結の連携協定に基づいた「岩館りんご園」で販売する予定。ほかに、廃棄農作物の削減のリンゴの可食部分を「環境緑花工業」(山谷幹樹代表)と新たな価値創出に向け、今年4月から加工業(山谷幹樹代表)品開発に着手。同大地のミニトマトと、吉田域経営学科の井上丹 宗司さん(左)のピーマ講師(99)とゼミの学生ンもブレンド。はっちが担当、被災農家支援 3階の飲食店「very berry」+原料に、7月4日の (ベリーベリープラ

ス」の照井美由樹代表がアドバイザーを務め、若者向けに製品化した。

イベント当日、スム

ージーは1杯250円で販売する予定。ほか、降ひょうで傷はあがるが食用に問題はないリンゴ、ミニトマト、ニンジン、ジャガイモ、レタスなども並ぶ。

29日、井上講師と学生5人が市庁に熊谷雄一市長を訪ね、製品の概要などを紹介した。リーターの4年宇藤紳太郎さん(22)は「青森県の地域農業の活性化に貢献できれば」と意欲。井上講師は「農産物を少しでも身近に感じてほしいという学生のアイデアを生かした」と述べた。

試飲した熊谷市長は「廃棄される実を使う循環型の発想が素晴らしいし、味も良い」と太鼓判を押した。

降ひょう被害のリンゴを活用したスムージーを開発し、熊谷雄一八戸市長(中央)に報告した八学大の井上丹講師(右から2人目)と学生